

鎮守の森だより

NPO 法人 社叢学会ニュース
第7号
2004年1月14日

社叢学会の歩み

新春を迎えて

社叢学会理事長・京都大学名誉教授
上田 正昭

あらたまの初春をお慶び申し上げます。平成 14 年（2002）の5月26日に、京都の賀茂御祖（下鴨）神社糺森研修道場を会場として創設されました社叢学会は、会員の皆様のご理解とご支援のもとに順調に発展してまいりました。

平成 14 年の9月から取り組んできました大津市・亀岡市・吹田市・桜井市・東京都世田谷区の社叢の調査と研究は第一期を完了し、社叢学会が中心となって企画・編集しました鎮守の森探訪ガイド『身近な森の歩き方』（文英堂）も、平成 16 年には再版の運びとなりました。

そして昨年3月には『社叢学研究』を創刊、続いて5月24日・25日には國學院大学渋谷キャンパスを会場として、平成 15 年度総会ならびに研究大会を盛大かつ有意義にもつことができました。

関西と関東で定例に開かれている研究会の内容も充実して、その報告内容には国内はもとよりのこと、朝鮮半島・台湾・東南アジアに広がる考察もありました。創立2年目の事業として、平成 15 年の10月18日から10月21日まで実施されました社叢インストラクター養成のセミナーには 11 名の方々が参加されて、好評裡に第一期を終了すること

ができました。宿泊その他でいろいろとお世話になりました伏見稲荷大社の坪原喜三郎宮司をはじめとする関係者の方々、ご多忙の中を出講・実習指導していただいた先生方に厚く感謝いたします。第二期として平成 16 年の7月10日から7月12日までが計画されています。

平成 17 年（2005）に開催されます「愛・地球博」には社叢学会も参加出展する予定で、理事会の承認を受けて出展企画委員会（藺田稔委員長）がその準備を進めています。趣旨にご賛同いただける皆様のご援助をお願いいたします。

平成 16 年度の総会および研究大会は、5月30日（日）に熱田神宮を会場として実施することが決まりました。研究発表を希望される方はなるべく早目に事務局にご連絡下さい。平成 16 年の3月には『社叢学研究』の第2号を発行する予定です。

隔月刊の「鎮守の森だより」もとどこおりなく学会活動のニュースとして刊行してまいりましたが、このように多様な成果を持続して積み上げてゆくためには、会員の増加が不可欠となります。更なるご協力をお願いいたします。

焼畑民の山ノ神

— 社のカミの原型を考える —

講師 佐々木 高明 (元国立民族学博物館館長)

はじめに

神社信仰の原型は、社殿のない森の信仰、あるいは山の信仰であった。社殿なき信仰のあり方をみると、巨岩巨石に神の降臨を仰いだ磐座(いわくら)、聖なる樹木に神が依りますとした神籬(ひもろぎ)、列石の結界ともいべき磐境(いわさか)などがあって、その他に神体山などがある。

神のいる山と山ノ神

神体山について景山春樹氏がまとめた『神体山 - 日本の原始信仰をさぐる』という書物があるが、ここに出てくる神は、総括していえば農民のまつる山の神だといえる。そこでは春には山宮から里宮へ神を迎える「みあれ祭」が行われる。それは同時に予祝行事の祈年(としどい)の祭でもある。秋には御神体山の神社では神送り神事新嘗祭があり、冬には神様は山に帰られる。その御神体山は、古くは人がみだりに入ってはいけない禁足地であった。

山宮については、柳田国男先生が伊勢のアラキダとワタライの氏神のまつりを細かい資料にもとづいて分析した『山宮考』がある。この二つの氏神は先祖霊であって、一定の時期に山から降りてくる。その神は、田の営みの初めと終りに故郷にやってきて、田を見舞うと説く。つまり、山宮の祭日は2月・4月・11月に集中し、山の神は田の神であり、田の神は山の神として帰る去来神であると説く。現在の日本民俗学会でもこの考えが基調をなす。

しかし、山の神すべてが田の神として去来する神かといえは決してそうではない。山の神には山の主というものが考えられる。例えば記紀に見える葛城山の巨人一言主大神と雄略天皇の狩りに関する神話、イブキ山の山の主の化身である巨大な白猪についてのヤマトタケル神話、更には弘法大師伝に記される高野山の高野(狩場)明神の説話などには、狩猟にまつわる山の神が存在する。『山宮考』で言う農民のまつる山の神と、山民の山を支配する力の強い(恐ろしい)山の神はかなり違うことがわかる。

ドイツの民族学者ネリーナウマン女史は、著書『山の神』で「日本の山の神には大きく二つの種類がある」と説く。その一つは猟師及び山稼ぎ人の山の神であり、いま一つは農耕民の山の神である。猟

師及び山稼ぎ人の山の神は、動物の主であり、山の主であり、森の神々である。農耕民の山の神は、田の神との交替、祖霊と結びついた神である。

ナウマン女史は、山の神と田の神の最初の結びつきについて、山中に拓かれた焼畑農耕で、その焼畑の拡大により山が衰退したため、山の神が山を離れ、やがて田の神となっていくと説いている。この理論は正に山の神というものを総合的に考察したものであり、山の神が田の神となり、田の神が山の神になるという去来信仰は後になって出てきたものであることがわかる。

焼畑民の山ノ神

日本の山ノ神を考える時、焼畑民の持っている山の神を考えることが、一つの大きな問題点となる。<北インドの焼畑民パリア族> トウモロコシを主作物とする典型的な雑穀栽培型の焼畑民で、村中に精霊ゴサインの聖地が7~8ヶ所以上ある。ゴサインは岩(石)や巨樹に宿る土地神的な神霊で、人に容易に憑依し、荒ぶる神として常に供犠が必要で、耕作にあたっては儀礼的な狩猟に出かけた。ゴサインは作物のある間は耕地に留まっているが、収穫儀礼が終わると森の中に帰っていく。

<台湾の山地民> 粟を主作物とする焼畑民(ブヌン族・ツォ一族)で、研究者として馬淵東一氏が著名。その調査によると、最初の定着者と森林(猟場)の間に<呪術的・霊的紐帯>が存在し、猟場(森林)の中に焼畑が拓かれる。ということは、猟場の持ち主が<土地の持ち主>になることで、猟場(あるいは森)の神が豊作を司ることになる。即ち、ここにおいて狩猟と農耕の結び合わせができた。

<ハルマヘラ島のガレラ族> ニューギニアの近くにあるこの島では、焼畑を造成するに際し、森に住む精霊(モロ・メッキー・イブリーシなど)たちに退去を願う儀礼を行う。わが国においても、類似した儀礼として山民が木の枝を伐採する際に唄う「木おろし唄」や「火入れ前の唱え言」などがある。

以上のことから、山民と農民にはそれぞれ山の神が存在するが、両者の間に焼畑民の山の神を挿んで考えると、山の神が山民の神から農民の神への進化・変容したことがつかめる。

次回予告(第9回関西定例研究会)

日時：2004年1月24日(土) 13:30~15:30

場所：ぱ・る・るプラザ京都(京都市下京区東洞院通七条下ル Tel.075-352-7444)

テーマ：タイの「宗教の森」を巡る過去と現在 一政治経済の変動と環境意識の高まりの中で一

講師：倉島 孝行氏(京都大学大学院農学研究科博士課程)

鎮守の森におけるCO₂ 吸収量調査報告講師 大崎 正治
(國學院大学経済学部教授)

調査の目的

鎮守の森が我々に与えてくれるものはなにか、各神社林の環境貢献度を、炭素蓄積量や炭酸ガス吸収量などで表し、神社林の地球温暖化防止への貢献度を広く一般に知らせるとともに、測量作業を通して森への理解と親しみを、体験的に深めるために調査をおこなった。

調査結果に基づいた分析

a.総面積の大きい三社と小さい三社の比較

大小それぞれ三社を平均値で比較すると、総面積において大きい三社(41871.5 m²)は小さい三社(724.4 m²)の約58倍ある。しかし樹林地面積は82倍(27258.2 m²:334.0 m²)となっており、材積量の数値では85倍(1893.3 m³:22.4 m³)、バイオマス量(1475.8 t:17.9 t)、炭素蓄積量(737.9 t:8.9 t)、CO₂吸収量(2705.6 t:32.8 t)、ガソリン車換算台数の数値(1442.1台:17.5台)は約82倍となっており、比率でも上回っている。しかし、1 m²あたりでの数値を比較すると、どの項目においても等しい、あるいはほぼ等しい数値となった。この結果から総面積が大きいことはもちろん大切だが、しかしもっと大切なことは、樹林地面積の大きさにあるのだ、ということが出来る。

b.同じくらいの樹林地面積での広葉樹・針葉樹それぞれの多い神社の比較

同じくらいの樹林地面積で比較するため、大宮八幡神社(15780.6 m²)と根津神社(14636.81 m²)を取り上げることにした。両神社ともに広葉樹が多いことに変わりはない(31本:46本)が、針葉樹のほうが大宮八幡神社には16本(34.0%)、根津神社には4本(8.0%)と4倍の差がある。直接この比率が関係してくる1 m²あたりのバイオマス量(0.0397 t:0.0514 t)、炭素蓄積量(0.0199 t:0.0257 t)を比較すると、根津神社は大宮八幡神社の1.29倍あった。

しかし、直接関係しない1 m²あたりの材積量、(0.0545 m³:0.0742 m³)を見ると1.36倍となり比率は増えている。もし、広葉樹・針葉樹の割合がCO₂吸収量その他に大きな影響を与えるのであれば、1 m²あたりのバイオマス量、炭素蓄積量の比率の方が大きくなるはずで、このことから広葉樹・針葉樹の比率差はCO₂吸収量にはそれほど大きな影響をあたえないことがわかる。

東京都の森林と鎮守の森との比較

我々が調査した神社と東京都の樹林地を比較すると、東京都の樹林地(348,640,000 m²)の中で調査した神社の樹林地(203911.7 m²)の占める割合は0.55%しかない。1 m²あたりの材積量(0.01257 t:0.05790496 t)・バイオマス量(0.0097517 t:0.045209474 t)・炭素蓄積量(0.00487586 t:0.022105811 t)(東京都:調査神社)の数値を比較すると神社は東京都の約5倍の数値となる。この数値から神社が東京の中で多くの木々を守ってきたということがわかる。大小様々な神社を50社調べただけの結果ではあるが、神社林の大切さがわかる。また、この東京という都会の中で樹林地を0.55%保持しているというのは、大きな意味があるといえる。

これからの活動

我々の報告は調査結果を十分に分析しつくしたとは言えない上に、調査自体が鎮守の森に関する炭素蓄積量の計測にとどまっており、1年間における炭素蓄積量の成長とCO₂吸収量を直接測量するに至ってもいない。したがって、1年後ないし数年後、同じ神社を測量し、鎮守の森の成長を測ることが今後の課題としてのこされている。

文責：古川 誠

次回予告(第9回関東定例研究会)

日時：2004年2月21日(土) 14:00~17:00

場所：東京農業大学・世田谷キャンパス 18号館1階1811教室

(世田谷区桜丘1-1-1 TEL03-5477-2428)

テーマ：鎮守の社の樹木調査について

講師：田中 利勝(自然通信社代表)

書籍紹介

「日本文化の基層研究」

上田正昭・著

＜日本らしさとは何か＞をテーマに、日本神話や神社神道の原像、鎮守の森の伝統と社叢の変遷、河内王朝と巨大古墳、大和と出雲、万葉集と和歌のころ、日本人の他界観念などを論じ、固有の文化を形成した日本文化の基層を探求した好著。社叢学会理事長でもある著者にとって単著 50 冊目となる記念すべき著書。著者は「日本人のアイデンティティを確立するためにも、＜日本らしさとは何か＞を探求することは、現在の重要な課題のひとつといてよい」と記している。

学生社・定価 3,200 円（税別）

- 2005 年に「自然の英知」をテーマに開催される愛知万博（愛・地球博）に社叢学会も出展参加することが決定し、着々と準備を進めております。出展テーマは「森に生きる文化」とし、会場の一画（約 2,000 m²）に＜聖なる森＞を再現しようとするものです。詳細は追ってご報告します。
- 一昨年より数回にわたり行ってきました「入らずの森研究会」の研究内容をまとめた出版物が 5 月に平凡社から刊行されます。内容は禁足地（入らずの森）を歴史学・民俗学・宗教学・植物学・文化人類学・都市計画学の支店から探求したものです。
- 事務局を 4 月 1 日より京都に移転する準備を進めております。次回の「鎮守の森だより」には新住所・電話・FAX 番号等々の連絡先を明記させていただきます。

事務局から

- 謹しんで新春のお慶びを申し上げますと共に、会員の皆さまの益々のご健勝をお祈り申し上げます。本年も何卒よろしく学会活動にご協力賜わりたくお願い申し上げます。
- 平成 16 年度の総会ならびに研究大会を 5 月 30 日（日）に名古屋市の熱田神宮を会場に開催いたします。当日の研究発表者を下記の要領で応募中です。奮ってご応募下さい。

編集後記

関西地方では本当に穏やかで春のようなお正月を迎えました。この好天に誘われて今年は初詣客も例年になく多く、伏見稲荷大社も、普段なら 5 分で行ける参道が人の波に埋まりなかなか進めなかったとかや。初詣に込める思いはさまざまですが、この中でほんの一握りの人でもいいから社殿の周囲に豊かに広がる（本来広がるべき）森のことを考えてくださっていただければうれしいなあ。と、例年になくまじめな言初め… う～ん。ともあれ今年もよろしくお願いいたしま～す！（藤岡 郁）

研究発表者募集！

テーマ	社叢に関する理論的研究 社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究
発表時間	20分(報告15分+討論5分)
応募締切	平成16年2月末日必着
※	応募者は住所・氏名・職業を明記の上、発表内容を300字～400字にまとめて事務局(大阪)に御送付下さい。
※	応募者多数の場合は研究発表審査委員会で審査し、3月末に採択通知を致します。
※	採択が決定し、大会当日に配布する資料は4月末までに事務局に御送付下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒540-0012 大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル5階
 TEL/FAX06-4790-0155 E-Mail jim@shasou.org
 社叢学会関東支部 〒171-0021 豊島区西池袋2-36-1 ソフトタウン池袋1101
 TEL03-5950-6507 FAX03-5950-5184 E-Mail shasou@macrovision.co.jp